

(別添資料)

|           |             |                                                                                                                                                                                           |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
|-----------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|----|---------|------|---------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|---|
| 事業所名      |             | 児童発達支援事業所    こどもの駅    とれいん                                                                                                                                                                |     |      |    | 支援プログラム |      | 作成日     | R6      | 年                                                                                                               | 12 | 月  | 23 | 日 |
| 法人（事業所）理念 |             | 言語聴覚士や保育士、幼稚園教諭、看護師などの専門職がそれぞれの強みを活かし、お子様一人ひとりに最適なプログラムの立案・実施を目指します。さらに、子育て支援の一環としてペアレントトレーニングを実施し、ご家庭での悩みや不安を伺い、共に考えながら解決、成長へと導くサポートを行います。                                               |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
| 支援方針      |             | 当施設では、多職種が連携し、お子様一人ひとりの発達や個性に寄り添った支援を大切にしています。専門性を活かしたプログラムの提供とともに、ご家庭との連携を深めることで、生活の中での困りごとを共に考え、解決、成長へと導くサポートをさせていただきます。                                                                |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
| 営業時間      |             |                                                                                                                                                                                           | 8 時 | 30 分 | から | 17 時    | 30 分 | まで      | 送迎実施の有無 |                                                                                                                 | あり | なし |    |   |
|           |             | 支 援 内 容                                                                                                                                                                                   |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
| 本人支援      | 健康・生活       | 個別療育が楽しみな時間となるよう工夫し、子ども自身が通所に目的意識を持ち、生活リズムを理解できるよう支援します。また、日中の活動の場として心身のエネルギーを発散できる環境を整え、健康的に過ごせるよう配慮します。基本的な生活習慣の獲得に向けて、子どもの主体性を引き出しながら、自発的な行動が生まれるタイミングを尊重し、必要に応じた環境支援と見守りを行います。        |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
|           | 運動・感覚       | 感覚統合遊具を活用し、遊びを通じて全身の感覚が統合されるような環境を整えます。また、スキンシップ遊びなど、人との関わりを含めた五感を刺激する活動を取り入れ、環境との相互作用の中で充実感や安心感を実感しながら経験できるよう促していきます。                                                                    |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
|           | 認知・行動       | 指導員は、子どもの興味や関心に沿った多様な提案を行い、自己選択・自己決定のプロセスを経験できるよう支援します。また、試行錯誤の過程を十分に積み重ねられるよう配慮し、自ら気づき、主体的に取り組む姿勢を育んでいきます。環境設定や提案の工夫を通じて、興味や関心の幅を広げるとともに、見通しを持ちやすくし、イレギュラーな状況への対応力を身につけられるよう支援します。       |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
|           | 言語コミュニケーション | 能動的に行動を起こせる環境を整えることで、感情が動く瞬間を増やし、「話したい」「伝えたい」というコミュニケーションの意欲を高めていきます。また、子どもたちが発信するサインに大人が適切に応じる関わりを大切にし、「伝わった」という実感を積み重ねられるよう支援します。さらに、言語聴覚士による評価をもとに、一人ひとりに合った適切な支援を行い、過不足のないサポートを提供します。 |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
|           | 人間関係社会性     | 子どもを中心に、集うすべての人が感情を分かち合える温かい居場所をつくります。関係性の構築を大切にし、子どもの強みを活かした役割を持たせることで、人の役に立つ経験を重ね、自己肯定感の向上を支援します。また、こども園等でも家庭でもない第三の居場所として、心身のレスパイトの機会を提供し、のびのびと自分らしく過ごせる時間を大切にします。                     |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |
| 家族支援      |             | 子どもの様子を客観的に観察できる時間を提供し、新たな気づきを得る場として活用できるよう支援します。また、困り感や気づきについていつでも話せる環境を整え、レスパイトケアを通じて心身のリフレッシュを図ります。                                                                                    |     |      |    |         |      | 移行支援    |         | 集団生活や社会生活に適応できるよう、それぞれの特性に応じた対処法を学べるよう支援します。また、外出や調理などの活動を通じて、余暇活動に必要なスキルを身につける機会を提供し、生活の幅を広げていきます。             |    |    |    |   |
| 地域支援・地域連携 |             | 地域の会や自立支援協議会など、関係機関との連携を強化します。また、学校や園からの相談や情報共有があれば、療育的な視点から提案や助言を行い、支援をより効果的に進めていきます。                                                                                                    |     |      |    |         |      | 職員の質の向上 |         | 発達特性や支援の手立てについて研修を通じて学び、専門性を高めていきます。支援の中で得られた気づきや変化は職員間で共有し、積極的に事例検討会を実施することで、支援の質を向上させるとともに、チーム全体で成長できるよう努めます。 |    |    |    |   |
| 主な行事等     |             | 季節や時期に合わせて、文化に触れられる行事を実施します。子どもたちの社会性や集団での協調性を育んでいきます。イベントホールでは、母親向けや父親向けの茶話会などの親子交流イベントを開催し、家庭との連携を深める場を提供します。                                                                           |     |      |    |         |      |         |         |                                                                                                                 |    |    |    |   |